

# モンテッソーリ Luce だより

2018年2月

モンテッソーリ Luce タイム担当：小山 英里佳

今年度のモンテッソーリ Luce タイムも終了しました。今期は数のお仕事を紹介しました。モンテッソーリの数教育では、具体物を使って実際に行う直接認識が大切にされています。抽象的な数字から入るのではなく、具体物を使い実際にその量を体感してから、それに対応する数字を知っていくという形をとっています。実際に手を動かし、感覚的に数の大きさを知ることで楽しみを感じながら学ぶことができるようになっているのです。最終日にはお菓子を分けながらわり算の印象付けを行いました。まだ、よくわからなくても沢山のものを同じ数ずつ分ける経験を実際にするということが大切です。お菓子などを分けるだけでなく日常生活の中で、リンゴなどを切った時に半分を2分の1ということ教えるなど少しずつ知る機会を与えてあげるといいですね。また、ものを数える経験をすることも量を知ることになるので生活の中で大切にしたいですね。

最後に記念製作として刺繍もしました。今までのぬいさしの経験を生かして皆とてもよく頑張っていましたね。モンテッソーリ Luce タイムでは本当に限られた時間しかなく、モンテッソーリ教育のお仕事の一部しか紹介できませんでしたが、家庭でできるものもたくさんあります。記念製作で行った刺繍やアイロンがけもそのひとつです。今後もモンテッソーリ教育をご家庭でも取り入れていっていただければと思います。一年間本当にありがとうございました。

## 今月のお仕事紹介

### ☆数字と玉 対象年齢：4歳～

数字と玉は1から10の切り抜き数字と55個の玉を使って行うお仕事です。順番に1から10の切り抜き数字を並べ、その数字と対応する数の玉を並べていきます。並べ終わると、視覚的にも数の大きさの差がわかります。また玉の並べ方にきまりがあり、縦に二列に並べ、奇数の場合は最後の玉を中央下に置いていくので、指が玉の間を通るか通らないかで奇数偶数を知ることができるのです。また、活動の展開として6つの玉を使って2つにわけたり、3つにわけたりする等わり算の印象付けもできる教具です。

興味点：1つずつ数えて玉を置く。奇数は最後の玉を中央下に置く。  
指で間を通る。空間の取り方。

直接目的：それぞれの数は分離した量が集まってできているということを知り、定着させる。奇数、偶数を知る。

子どもが以下のことをわかっているかを確認できる。

- ①数字を順番に並べていくことによって) 数の順序。
- ②(玉の数を数えることによって) どれだけの量が集まって数をつくるか。

間接目的：わりきれぬ数を知る準備になる。



## 【活動の様子】

《記念製作 チューリップの刺繍袋づくり》

